

美しい 県土づくりNEWS



2007 年

1 月

岩手県県土整備部手づ

くり広報誌 30 号

平成 19 年 1 月 5 日発行

編集 県土整備企画室



岩手の風景

春の海 宮古市田老佐賀部から見た真崎海岸

あけましておめでとうございます。

昨年末は沿岸部を中心に季節外れの大雨に見舞われ、災害復旧で始まる新年となりました。

本年は春の海のような穏やかな 1 年でありたいものです。



佐賀部は北三陸の特徴である断崖が描き出す海岸線が大変美しく、また、ウミネコの繁殖地として知られています。

中ノ浜から田老までは遊歩道が整備されており、冬温暖な北三陸のすばらしいトレッキングを楽しむことができます。

目次

- P 2 ● 今月の人 西畑県土整備部長
- P 3 ● 社会資本の整備と活用を通じた地域づくり
フォーラム
- P 11 ● 岩堰川フォーラム (県南局)
- P 13 ● これからの川づくり (盛岡局)
岩崎川ワークショップを開催
- P 15 ● 県土整備部パネル展を開催
- P 16 ● 砂防と災害 (県土整備部パネル展から)
- P 18 ● トピックス 北山トンネル貫通式
- P 19 ● みんなの声 県政提言
- P 21 ● インフォメーション 道路交通センサス結果他
- P 22 ● インフォメーション 盛岡市北山地区の道路事情
- P 23 ● インフォメーション 県土整備部なるほど探検講座
- P 24 ● インフォメーション 建設企業の経営戦略セミナー

今月の人

「新年おめでとうございます」

県土整備部長 西畑 雅司



「美しい県土づくりニュース」の読者の皆様、新年おめでとうございます。

日頃から県行政に対しまして、ご理解、ご協力を賜っておりますこと誠にありがとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は、福島県、和歌山県、宮崎県と知事が3人も公共事業に関する不正で逮捕されるという異常な年でした。地方行政、とりわけ公共事業に対する信頼を裏切る許せない事件です。

10年ほど前にも、宮城県知事、仙台市長が逮捕されるということがありました。その後、官も民も大いに反省し自戒してきたはずなのに、また繰り返されたことは残念でなりません。

このことにより、やっぱり公共事業は何かしら胡散臭いものと県民に思われ、公共事業に対するイメージが一気に悪くなったことは、公共事業に携わる一人として慚愧に堪えません。

橋が悪いわけでも、道路が悪いわけでも、下水道が悪いわけでも、そして、そこで汗して働く技術者や労働者が悪いわけでも決してありません。

公共事業は人々が心安らかに暮らしていくために必要なものを、住民からいただいている税金で国や県や市町村が住民に代わって造り、管理しているもので、本来、気高い事業だと考えております。

ところで、部長室に1枚の拓本を貼っています。「戒石銘」と呼ばれているもので、福島県二本松市の霞ヶ城の入口の花崗岩に刻まれているものです。

爾 俸 爾 禄 (なんじのほう なんじのろくは)

民 膏 民 脂 (たみのこう たみのしなり)

下 民 易 虐 (かみんは しいたげやすきも)

上 天 難 欺 (じょうてんは あざむきがたし)

「お前の給料は、人々が脂して働いたその賜物より得ているのである。お前は人々に感謝し、労らなければならない。もしこの気持ちを忘れて弱い立場にある人達を虐げるようなことがあれば、きっと天罰が下るであろう。」

といった意味だと自分なりに理解しています。旧建設省の工事事務所長の時から、自戒を込めて机の近くの目に触れるところに貼って、折にふれて見るようにしています。

さて、公共事業に携わっている皆様へ、私たちはこれまでより良い県土、より良い地域にするために工事や管理、そのための計画、調査、統計、用地交渉、住民説明など、それぞれの現場現場で地域や住民への熱い想いを胸に、経験、技術、知識を駆使して、それぞれの役割を果たしてきました。

その使命は不変であろうと思いますが、手段、手法は地域地域、時とともに工夫しなければならないと考えております。自分の頭で考え、地域の方々と話し合い、皆で知恵を出し合ってチャレンジしていきたいと考えております。

多くの方々と議論でき、地に足をつけてひとつひとつ着実に実践できる1年でありたいと願っております。道は長いですが、皆様の不断の努力が悪いイメージを払拭できる唯一の方法だと信じます。

最後に、皆様そしてご家族にとりまして今年が、ご健勝で実り多き年でありますよう心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

～地域が元気になるために社会資本ができること～

社会資本の整備と活用を通じた地域づくりフォーラムを開催しました。

今回は、基調スピーチをご紹介します。田口さんが発するパワーと会場の熱気をお届けできないのが残念です。

NPO法人田沢湖ふるさとふれあい協議会
理事長 田口久義 氏



私どもは修学旅行の受け入れをしてちょうど今年で25年になるそうです。いわゆる四半世紀ということで、新聞など色々なところで取り上げていただいています。こ

の岩手県には優秀な方や優秀な団体が沢山ありますが、その中で、山を越えた向こうから釣り上げていただいて今日来た所でございます。

私が今朝出るときには雪です。こちらに来たらこの天気です。いわゆる表日本と裏日本。これは後で出ますが、日本の国というのは自然の摂理というか、たいへんうまくやっているなどと思っています。

こうして講演などを頼まれてきても、(聴講者は)普通でしたら農家民宿または農家宿泊あるいは体験農業の受け入れ農家、そういう受け入れ農家の人が多いんです。あるいはそういう関係の町村議会の人たちや、それを担っている行政の人が多いんです。

でも今日は、先程部長さんが言われましたように県庁の方もおられれば、色々な方が沢山。それぞれの団体の方、受け入れ農家の方も来られているようです。ですから皆さんに合わせた話になろうかと思いますが、すべてパーフェクトにというふうにはならないと思います。私の話の中からいくらかでも、少しでも自分達の役に立つ事があったならば役に立てるようにしてください。

どうしてこうなったのかということ、現在はどうなっているのか、我々がやっている都市農村交流は将来どうなるのか、その3つの視点に変えながら将来に向かって話したいと思います。

「元気の出る話をしてください」ということでしたが、元気が出るかどうか、皆さん聞いてお帰りになった後でそれぞれ自分の条件に合わせてみてください。

題は「新産業としての意識改革を」。これはこのレジュメの一番最後に出ています。今まで日本の農村が育んできたものを今また一番必要な教育という場面で、いわゆる文部科学省がそれを必要としています。

私どもの年代の小学校と中学校では春と秋には農業の休みということで1週間ほどの休みがありました。「田を持っている人たちは早く田植えを終わらせて学校へ出てきなさい。田圃のない方は手伝いに行ってお早く来い」というのがありました。岩手県もあったはず。私どもの所もありました。勿論、秋の稲刈りもありました。ところが、私どもが高校へ入った頃にはそれは無くなってしまいましたね。

皆さんご存じのように、平成に入ってもなく京都奈良での修学旅行の乱闘事件・学校同士の喧嘩がマスメディアを大変賑わせました。新聞も含めてテレビ・ラジオでやりました。特にその中でも東京町田市の忠生中学校。あの学校は高校も含めて大変に有名になりました。とにかく教室のドアや扉がないんですよ。大工さんが作ってもすぐ壊しちゃうというんです。たまたま私どもが体験学習を受け入れしだして、東京の方から「ちょっと見に来い」と言われ行ったんです。学校に行っても玄関から戸が無いんです。10月でした。私が行ったのは。「もう、寒くないんですか」と聞きました。東京はまだ10月は寒くないんですね。12月になったら戸は壊さないだろう。何故かという寒くなるからというんです。そんなこんなで、見てきました。

平成5年に文部大臣の諮問機関から建議書が出ました。その建議書の中には日本の荒れた義務教育の欠陥として・・・近い将来ということでしたけれど「総合学習という名前で、いわゆる1週間程度のボランティア活動が農林漁業体験を義務教育に入れる」という通達です。それが今回、それぞれの教育委員会あるいは学校の先生が大変悩んでおります「総合学習」の一環ですね。

私どもにとって大変近い岩手県ですが、今年の冬にまた冬季国体が秋田で開かれます。これが都合4回目です。第1回は昭和46年に開催されました。その年には県境にあります駒ヶ岳が噴火しまして体協関係の方々がたいへん気を揉んだ古い記憶があると思います。

昭和46年に国体を行いました。そのとき田沢湖高原というのは宿泊施設が少なく、ほんの数百人、300人ちょっとしか宿泊施設がなかったんです。選手・役員で数千人が来るということで、地元の農家にターゲット・・・いわゆる白羽の矢が立ちました。私の家もそのうちの軒でした。

日本の国というのは今までずっと神道の国で来て、冠婚葬祭は自分の家でやることを続けてきた。岩手県もそうです。そういうことから座敷が非常に広いんですね。一軒の家で、多いところで15人くらい、あるいは7～8人くらい。100軒近い農家が協力して国体を乗り切った経緯があります。

その結果、色々予約などが入りました。たまたま昭和46年の12月の21日付で私の家が所轄保健所の許可をいただきました。あの頃は「季節営業でやりなさい」ということで、いわゆる民宿の走りでしたが許可をいただきました。それから大体2年で3軒。10年くらいした頃には40軒近い民宿が開業致しました。

民宿といっても、私どもは農家をやって米あるいは野菜を作っていた人がコロリ180度変わって今度は接客業でし

よう。まあ、これは大変なんですよ。やられている方はわかると思うんですが。

そして10年後には軒数が40軒近くなりました。実は無我夢中で10年くらいやっていましたが、たまたま昭和57年にこの盛岡駅と大宮の新幹線の暫定開業になりました。それと同時に首都圏からスキー修学旅行の話が入ってきたんですね。勿論ここから見える場所、スキー場は沢山あります。こちらの網張温泉でもやっておりまして。私どもの方へも話が入りました。

たまたま私は、昭和46年の国体が終わった次の47年から、すぐ裏側の田沢湖スキー場220ヘクタール・・・あの頃は面積は日本で3カ所のうちの3番目だったんですけれど・・・そこでスキー学校をやっていました。その話を断ったらもう二度と無いということで受け入れました。横浜の高校でした。受け入れましたら2年3年後には倍々で増えていきました。

3年目くらいからですから昭和59年、60年頃から「冬の間にはスキー修学旅行をやったなら、夏の間にも何かやりたいけれど何か良いのありませんか」という話をしている間に、「田植えをして欲しい」という学校が首都圏から出ました。これも断ったら二度と無いということで受け入れました。6軒の農家で146人です。

皆さん、田沢湖に行く途中に手前の46号線で通るところがあります。あの辺が私どもの集落です。石上地区という所です。そこで私が受けまして6軒の農家にお願したんです。なんとかかんとかやったんですが、これが怒られましたね。まず怒られたのが農業委員会。役場の農林課。農協です。

行政の方がここにいますが、あの頃は減反の走りなんですよ。もう米が余っている。日本の国は輸出しようにも高く買って買わない。だから減反減反で「米を植えるな」ということなんですよ。それなのに今度は修学旅行を連れてきて田植えをさせたでしょう。

次の年には農業委員会、農協、それから行政・・・町村合併前ですから旧田沢湖町の役場です。そこへ行って何とか了解を得ました。そうしたら1年目に来た学校が横浜で、地元のテレビ局が30分の番組編成で2年目の体験学習を放送したらいいんです。こちらの方には映らなかったんですが、そうしたら倍々倍で増えました。横浜の学校が15校くらい来ました。

昭和46年から民宿をやって57年の新幹線の開業と同時に修学旅行が入ってきまして、断らずに受け入れたのがなんとかかんとか功を奏しました。その部分が先程部長さんが言われたいわゆる社会資本になるのかなと思います。というのは全然経験のない農家の人がお客さんを受け入れ、宿泊をさせて接客をするという部分です。

私どもが民宿をやってこうして25年と言いましたが、平成9年頃から大学の卒論のテーマにグリーンツーリズムを取り上げる生徒が増えました。どういうわけかポツリポツリと平成8年、9年頃から来るようになりました。平成12年には9人来ました。その中の6人が女の子です。彼ら彼女

らが同じことを言うんですね。「私たち、グリーンツーリズムをやりたいくて大学を探したけれど入る大学がなかった」と言うんです。どういう所かを調べたら、札幌には観光学科の大学がありますが・・・今は増えてきていますよ。立教もあります、横浜商科大は羽田教授が頑張っています・・・今はポツリポツリ増えていますが、あの頃は「無かった」と言うんです。

「農林省に電話した、こっちへ連絡した」って言う。田沢湖町の有名なわらび座さんをご存じでしょう。あそこで私どもの所を紹介されたということで何十人も来ました。平成12年に私の所に来たのは9人でした。女の子が6人。今は色々なところでそれぞれやっています。国連に就職してやっている方、九州におられる方、長野の観光公社観光課に就職された方もいます。

そういうことを考えてみますと・・・これは最後の話になっちゃうんですけど・・・これは、川上産業でもないんです。川中、川下でもないんです。いわゆる隙間産業かというところでもない。日本の国はものすごい財閥がいっぱいいます。旧財閥・新財閥と分けているそうですが、彼らがやれるかというやれないんですね。日本で一番ベッド数があるプリンスホテル。26000ベッドあったそうです。あそこに営業本部長という方がいまして、その方とお会いすることがありました。そのことを聞きましたら、無理って言うんです。じゃあ古い旅館、ホテル、老舗がやれるかというと、それも無理という。「これはいわゆる新産業として認識が必要です」ということで、平成9年頃から私どもが東京のある団体に何度も呼ばれ、そういう所で訴えて参りました。

その結果「オーライ！ニッポン会議」というところを小泉総理が立ち上げて、岩手県からも何団体か来ましたが、そういう方達で国で一元化管理をするということで進めております。大変有名な養老孟司さんを一番上に据えました。あの方はちょうど東大の脳神経の解剖学が何かを退官されるということから「じゃあ、あの人がいいでしょう」ということで。それから、平野啓子キャスター、それから伊藤忠商事の丹羽宇一郎さんを実行委員長にしました。ようやく立ち上がって3年ぐらいて、今動いているところです。

そういうことで私どもが進めて参りましたが、平成5年6年の頃から倍々倍で増えまして10校15校20校を越えました。今もそうですが、この世界はマスメディアの通用しない世界です。たとえば安比にスキー場を作ってテレビ・ラジオのいわゆる電気メディアでダダダーッと放送するとスキー場にはお客さんが集まってきます。ところが学校の先生、修学旅行・義務教育、言うならば聖なる世界でしょうね。この世界にはマスメディアは通用しないですよ。『修学旅行、北東北へどうぞー！ダダダーツ』とやっても来ないですよ。

学校の先生は色々なところを探しているんですね。今までは神社仏閣、観光地、名所旧跡、北海道だ、九州だ。色々なところを探しましたが、やはり子ども達が体験学習をやったら学校に帰ってから子ども達の校風が変わっちゃった

と言うんです。その始まりが神戸のスキー修学旅行。これは昭和40年代に始めております。今ではその高校は卒業したOBが自分の母校の修学旅行のインストラクターとして信州にきています。あれが走りでした。約32~33年か34~35年前ですそれが関西で爆発的に飛び火しまして、それから約10年後、関東に移りました。

関東の学校がスキー修学旅行をやり始めた頃には信州・新潟、あの辺は関西の学校でいっぱいになりまして、志賀高原なんかはパンク状態です。志賀高原は修学旅行を一時期300校近く受け入れしたら、もう一般のお客さんが来なくなっちゃったんですね。修学旅行生はいわゆる「カラスの軍団」と名前を付けられました。今は志賀高原全体で200校以上は取りませんということで毎年すりあわせをします。勿論旅行業者を含めてです。特に集中するのがタンネの森周辺です。

皆さんご存じのように志賀高原というのは20近いスキー場があるんですよ。その中にもスキー学校がSIA、SIJ含めて30数校あります。SIAの場合はホテルに入っていますがSIJの場合は広く広域的にやっています。そんなところで大体200校です。特に来るのは四国、九州、関西です。九州とか関西の学校は志賀高原には行きたいわけです。ところが前に行っていた学校が何か不祥事を起こさないと次の学校が入れないわけです。不祥事ということは事故か事件なんですよ。そんな状況でいっぱいになっていて信州やそういう所に行かれないわけです。ですから自ずと東北へということでやって参りました。

57年の新幹線の大宮〜盛岡の暫定開業というのはものすごいインパクトがありました。盛岡の駅前には1月の10日から2月の20日まで大型バスが多い日には40台から50台入っているのをこの辺の周辺の人たちはみんな知っています。「この子達はどこへ行くの？」まず岩手県ですね。やってもキャパがないわけです。それで峠を越えてわざわざ田沢湖まで来られたんですね。学校数はもちろん最初は1校でした。昭和57年に話がありまして58年から実施し、一番多いときには田沢湖に来たのは55校でした。志賀高原が200校でしょう。田沢湖が一番多いのが55校。蔵王という有名なスキー場がありますが、あのスキー場で多いときで15~16校なんです。そんな状況でどれくらいの規模の学校がどれくらい来たかというのは、後にご想像できると思います。

公立高校の場合はクラスの1学級が40名です。最高でクラスが12クラスです。そうすると1年の時に40名一クラスですが、入学は44人か45人取るんですね。3年生で卒業するまでに40人になればいいということで取るそうなんです。ところが子ども達は丁寧に3年になるんですね。すると550人くらいになるんですよ。12クラス550人というと、ここから一クラス来るとバス12台出ます。その学校が私どもの所へ4校から6校入っていました。ということはバスが12台が4校来ると50台近いでしょう。それが田沢湖に来るんです。

ところがここでは網張もありました。それから裏にもあ

りました。それから鉛温泉もありました。それから少し遠いんですけど安比にもバスがここから出たんですね。雫石さんも「修学旅行はうちは取らなくてもいい」ということでスキー場経営されていましたが、とうとうトレンドには負けて「じゃあ、取りましょう」ということになりました。

そんなことで一時期のブームという形になって今は処理されています。なんでそうなるかは少ないかというと、公立高校の場合は距離と宿泊数とお金の問題があります。それに新幹線しかダメだったんですね。それが飛行機が解禁になり良くなったんです。それで北東北に来ていた学校がワーストと北海道に行っちゃったんです。新千歳に修学旅行の飛行機が行くようになりました。平成6年でしたか突然ガクンと東北地方が減りました。

そうしましたらやはり文科省では、「一つの飛行機に一つの学校、学年が乗ってはダメだ。2機の飛行機に半分ずつ分乗させなさい」と2年後に通達を出したんです。どういう事かということ、飛行機が1機落ちちゃうと、その学校の1学年がいなくなっちゃうということなんですよ。それで2年後にはもう半分にも減ってこっちに帰ってきましたね。帰ってきましたら今度は子どもの数が減っちゃった。今は少子化少子化といわれていますが20年前からそれは統計で出ていまして、「平成10年にはかなり減りますよ」と言うことで、私どもはそれに合わせた形で計画は組んでいました。

そういうことで、今は閉鎖されているスキー場がかなりあります。田沢湖高原も4つありました。一番奥の乳頭休暇村は閉鎖です。それから田沢湖高原も今年から閉鎖です。手前の2つだけの営業という形になっています。それから日本のスキー場は新潟、長野の大糸線沿線、上越線沿線、信越線沿線に大体85パーセントがありました。一つの駅に3つくらいあったんです。それが今大体半分以下になっています。これが正常なスキー産業としての流れかなと思わずにいられなくなりましたが。

本題の「グリーンツーリズム」の方へ移ります。

私どもがやっていた頃は「グリーンツーリズム」ではなく「体験学習」という名前だったんです。それが、文部大臣の諮問機関から出た建議書を境にしまして、文科省で何年か後には総合学習という形で1週間程度のボランティア活動か農林漁業体験を義務づけるという事で通達を出しました。それと同時に流れとして、マスメディアが作った言葉と言っていますが「グリーンツーリズム」という言葉が大変聞こえが良く出てきたんですね。ですから大体平成7年頃から「グリーンツーリズム」という名前になって、それが主流を占めるようになってきました。ところがそこに大きな誤解がありまして、「グリーンツーリズム」というのはやはりヨーロッパ、欧米の方から入って来た言葉ですが、向こうの方へ行くと体験がないんですよ。ドイツもイギリスもフランスも体験ということが入ってこないんです。ツーリズム・観光はあるんです。フランスに行ったらルーランとか色々なのがありました。軒数を調べても、イギリ

スなどはまだ4,000軒。ドイツで24,000くらい。フランスが今60,000軒越えました。ただフランスの場合平成12年に行ったときには55,000軒でした。それが5年くらいの間に60,000軒を越えちゃっているんですね。

フランスの場合はツーリズムといのはいわゆる観光の部分が多いですね。世界で一番観光客が行っているところがフランスなんですね。日本は外貨獲得を、昭和36年の所得倍增計画で工業立国ということで閣議決定してドンドンイケイケで進んできたんです。それで外貨を獲得して、こんなに豊かにはなっているんでしょう。ところがフランスなどの場合は外貨獲得を観光の部分に持ってきています。オーストリアなんかは観光省というのがあります。スイスもそうです。そういう意味では軒数を見ましてもドイツの場合はいわゆる地味な形でやられています。大きな違いというのはフランスはツーリズムの部分が多かったです。

平成10年から12年の間、たった2年の間に50,000軒あったフランスの農家民宿が55,000軒になっていますね。10パーセント増えました。そして更に既存の民宿が1,000室増室しています。ヨーロッパはヨーロッパでそういう流れがあります。

話を戻しますと日本の場合は農家民宿・農家宿泊、大分県なんかは農泊といっています。農村で体験学習や農林漁業体験をしようとして宿泊する場合・・・東京の大きなホテルがありますね。そういうところの宿泊の建築基準法と消防法と食品衛生法の法律の網が日本の農村の田舎でも同じく掛かっちゃうんです。「それが大変問題ですよ」ということで私どもは平成8年9年から、呼ばれた会議などでものすごく訴えてきました。

そうしましたらここ5～6年のあいだの小泉さんの規制緩和政策で、岩手県の遠野もどぶろく特区を取っていますが、色々な規制緩和がされました。北東北、特に岩手県・秋田県・青森県が歩調を合わせて行政の方達が頑張って県としての法の解釈・指針を作ってください、まず誰でもやれるようになりました。個人では無理ですけどね。国は国としての規制緩和、県は県としての指針あるいは条例の改正ということで、今は進めていただいております。

そういう意味では、先程部長さんが言いました社会資本、行政・・・昔は産官学といわれていましたが・・・そういうところの歩調というのは合って進んでいるのではないかなと思います。青森県は青森県で今やっています。そういう意味では大変結構なことだなと思って私どもは歓迎しているところです。

今、私どもが体験学習ということでやっていたら、46年から大体10年を目標に57年の次の国体。この時にはもうすでに田沢湖高原一帯は800人、1,000人近く宿泊できるホテルが4棟5棟と建ちました。あの時は無事にホテル関係で国体を乗り切りました。次の国体は鹿角一本ということで鹿角市が全部それをやりました。

今回つまり来年度の19年国体は、実は行財政改革を推し進められまして「公的な宿泊施設は固定資産税も払ってい

ないんだから民間のホテルなどとは違う、だから廃止しなさい」ということで、だいぶ強く圧力団体が出ました。その結果、田沢湖町にありました町営のこまくさ荘は廃業しました。それから県の共済組合でやっていた田沢湖ハイツというのも廃業しました。簡保の宿、これも建てたばかりなんですがまもなく営業を終わる。これは私どもの所だけではなくて全国的な流れだそうで、やはり宿泊数が少なくなってきたんですね。そうすると「今年の国体にはまた農家民宿をお願いします」ということでまた何十軒か、そういう形で今進んでおります。下へ戻ったと言ったら変ですけど、ある意味ではグレードが上がって元に戻るのはいいいんですが、成熟してというのならいいんですが・・・まあ、そういう状況です。

今度は農家民宿の本題に入ります。マスメディアの通用しない学校の修学旅行という世界。私どもが中学・高校のころは田舎者が首都圏の雑踏を見に行くものだという理解しかなかったんですよ。ところが、それが話が逆になって都会から農村に来る。こんな事あり得るのかなと思っていたんですが、彼らは終戦後の子どもです。昭和30年～40年代後半に産まれた子供達が日本の農村に来て、いわゆる昭和36年のイケイケドンドンの日本の高度経済成長で外貨獲得をして、都会で育った子ども達が農村に来て目が輝いて帰っていくんですよ。マスメディアの通用しない世界です。どうしてそういう世界に入ってしまったか。これは言い方を変えると、どうも見ていると先生方の特殊なネットワークというのがあるようなんです。

もう一つは、修学旅行の主役は旅行社でもなく先生でもなく、やはり子ども達が主役だったということなんです。

どういう事かという、色々な修学旅行が発生する段階で、私たちが旅行社あるいは学校の先生方と掛け合いをします。学校の先生方は農村の、農家のありのままの姿を求めてくるんです。そこに法律の網が被ります。例えば「トイレはすべて水洗でなければダメだ」。消防法ですと「誘導灯を全部つけなさい」。そして建坪が木造で150坪になりますと「スプリンクラーをつけなさい」。ところがその投資額たるやものすごいものなんですよ。まずそれで農家は「もうやめました、だめです」。それが第一のバリアです。もう一つありまして、農家の人をお願いに行きます。「こういう学校が来るんだけどお願いします」というと、まず女の方が出てきます。食事の準備しますよね。同じことを言うんです。大体年代が50代から60代後半の方達です。どうということかという、こう言うんです。「まず、盆と正月に小姑方が来るのだけで沢山だ」と言うんです。それが第二のバリアでした。

ところがそれが最近少しずつ変わりました。原因は色々あります。まず今まで日本の国というのは米が一番の軸足でした。その値段が下がったというのはサラリーマンでいうと給料が下がることなんですよ。昭和60年、日本の国で一番、米が高く売れました。私たちは「あきたこまち」を作っていましたが1俵60キロ22,000円で売れました。そうしたら平成11年か12年に東北でカメムシ冷害という

のがありました。その時に1俵11,800円でした。私はたまたま昭和60年と平成12年に同じ面積を作っていたんです。昭和60年と12年で比較しました。農協の指導課に計算をしていただきましたら42パーセント減なんです。サラリーマンの給料が半分下がっちゃったような状態なんですね。それでも農家というのは米が高い時代にどっぷりぬるま湯に浸かっていて、第二の軸足というのを考えなかったんですね。

ところが、考えた方もいっぱいいるんです。岩手県の方達もいっぱいいました。安代のリンドウだとか、いくつか回って歩きました。秋田にもありました。その中でも私どもの大曲・仙北地区というのは大穀倉地帯です。今、農協合併の結果3万人の組合員で日本一になりました。ところが組合員は日本一でも農家の借金も日本一になっちゃったんですよ。

そういう形で一つの軸足、米しかなかったものが「じゃあ、次の」となるとなかなか踏み出せないんです。たまたまそこに私どもが昭和46年の国体の副産物として残った農家民宿、いわゆる民泊。「それは他ではやっていない、秋田の田沢湖しかやっていない」ということになったんですね。今年で25年といいましますけれど、ちょうど10年10年スパンで、いわゆるバリアを飛び越えるチャンスといえますか・・・それは皆さんのやる気がなければダメですけど・・・そういうことがありました。

最初の10年というのは、修学旅行が増えてきたということです。二つ目は、私どものNPOという法人化の問題です。行政さんの役目は、民間の人たちの手を引っ張り上げてレールに乗せて、レールの上を走らせることだと私は考えていました。

都会の子ども達・先生が求めてくるものは日本の農家のありのままの姿なんですよ。ところが法律の網が被る。

一つこういう事件を想定しました。農家の家に都会の中学生・高校生5人くらい泊めました。たまたまその農家が火災にあった。子ども達5人亡くなっちゃった。どうします？いわゆるリスクマネジメントです。私が代表をやれということでやらされていましたので、考えるのはそういうことしかないんですね。「修学旅行が突然来なくなったらどうしよう。何でこうして来るんだろう」。あるいは「事件・事故が起きたらどうしたらいいだろう」。

日本の国家は法治国家でそういうところには立派にいろんな保険制度があります。今も覚えています、平成9年大蔵省の保険局に電話をしました。4回か5回電話しました。その担当者の若い人がこう言うんですね。「今、日本の国で農家に泊まって火災が起きても事故が起きても、そういう保険は認可もしていませんし発売もしていません」と。これは当たり前なことなんですね。「じゃあ、どうしたらいいんでしょう」と聞いたんですね。そうしたら「その組織を法人化しなさい」と。

法人化というのは考えてみたら利益追求の会社は色々あります。合弁・合資・有限。あるいは社会福祉法人・学校法人、色々あります。やはり適当と思われたのは公益法人

ですよ。そうしましたら「自民党本部で非営利特定促進法の検討会をやっている。まもなく世に出るので、それを検討したらどうか」という話が出ました。

次の年、1998年3月19日の国会を通過しましてその年の12月1日に世に出ました。それをインターネットで引っ張ってみたら誠に都合が良いんですよ。まず資本金がいらないんですよ。私どものように事務所を秋田県に置くのであれば県庁に申請書を出す。あとはやることは会社と同じなんです。そしてそれが銀行口座も持てる。財産、土地も持てる。「体験学習の子ども達が怪我をした。事件を起こした、事故を起こした」という場合もカバーされる保険も今出ております。

そしたらまた良いことに、田沢湖町では最初のNPO法人なので、町長が「どこか一部屋を事務所に使え」ということで一部屋貸していただきました。合併して仙北市になりましたが、他のNPOに羨ましがられています。

そんなことで、大蔵省の保険局のアドバイスと、私どもやっているものに合うような形に世が進んできたんでしょうね。そう思わざるを得ないんです。それと同時に修学旅行が倍々々に増えて、平成10年から12年にかけては受け入れ学校数が30校前後です。そして断る学校がその倍から3倍でした。

実は今日もこうして岩手県さんにお邪魔していますが、平成10年の頃から青森県、山形県、勿論この岩手県も含めて福島だとか、そういう所から「修学旅行を受け入れについて話をしてください」と言われるようになりました。しかし、秋田県では全然掴んでいなかったそうなんです。たまたま平成7年に東京都北区の教育委員会から「田沢湖に修学旅行に行っているんだけど断られる学校が多いので、何とか県の方で善処して欲しい」という申し入れが県の観光連盟と教育委員会にあったそうです。それを調べましたらわらび座だったそうです。

今から4年前です。今度は東京の大田区の教育委員会からたまたま私の家に電話がありました。朝です。「今、大田区の教育委員会をやっているけれど、明日(私に)家に来て下さい」というんです。「うちの指導主事を1番の新幹線でやるので11時頃に着くはずなのでいてください」という。北海道出身の指導主事の方が来たんです。大田区の六郷中学校を私たちは前年に受け入れていたんですが、「大田区の区立の学校を全部田沢湖でやってほしい」と言うんです。

「何校あるんですか」と言ったら38校あると言うんです。断ったらしゃくに障るので「じゃあ、やりましょう。ただ条件があります」と。修学旅行はグリーン期の5月から6月の第1週くらいまでがバーツと込むんですよ。JRも修学旅行列車というのを出すんです。その抽選もあるんですがね。「5月6月はダメです。9月から11月なら良いですよ」と言った。そして今年からポツポツ来ています。

県の観光連盟や教育委員会も状況を掴んでなくて、照会がきました。「過去にやったものを見せてください」という事なんですね。いわゆる行政が後手後手になっちゃったということなんですね。

皆さんご存じのわらび座とは、私どもはしっかり毎年すり合わせをしています。垣根もしっかり持っています。一つがダメなら2つも3つも持っています。同じ田沢湖町、今は仙北市になりましたが、そういう形で峠を越えたこちらの雫石さんとも色々な形で話し合いもしながら進めているのが現状です。

これからこの世界・この分野がどうなるかという、先程言ったように大企業も無理、財閥も無理、大きなホテルも無理、湯治場も無理なんです。ということは新産業として認識をしてということです。これも昨年、自民党の武部幹事長に「新産業として認識してください」と言ってきました。「新産業として認識するのであれば新しい法の整備が必要でしょう」ということでまた「オーライ！ニッポン会議」を中心に細則の作業に入っているようです。

そんなことで帰ってきましたら農家の親父であきたこまちを作っています。20年前までは政府米を作っていたんですよ。今は自主流通米です。

ではこれからどうなるのか。これから元気の出る話になるかと思うんですが、先程言いました欧米です。結局ルーツを調べますと欧米の方が古くからやられているんですね。ドイツ・フランス・イギリス。イギリスは去年行った時で4,000軒くらいだけれど無認可でやっている人もいますよね。無認可という言葉を出して今話をしましたが若干の法の規制を言いますと、フランス・ドイツなどは2日間の講習で「はい、どうぞ」なんです。ベッドが5つまでは2日間の講習。女の方がいて講習を受けて帰ってきて「はい、やりますよ」。25ベッドでしたか、詳しい数字は今年はちょっとわからないんですが、それ以上になると、今度は州の許可がもらえます。そういう形でドイツ・フランス・オーストリア・スイスなども若干違います。

何よりも一番大きな違いというのは、向こうの方の歴史を調べますと、グリーンツーリズムという前に休暇なんです。ドイツの場合は昔、戦争に行った兵隊の休みを農家で休ませたんです。フランスもそうでした。そこに大きな違いがあります。例えば日本の場合、お医者さんに行ったら「うつ病」と診断されます。処方箋が出ます。ドイツもフランスもそうですが、「あなたはどここの農家民宿に行ったら3ヶ月あるいは6ヶ月療養しなさい」というと、その農家に行ったらその人が療養するわけです。1ヶ月に3回とか、1週間に1回ずつ病院と往復する。それにしっかり医療保険が支払われるんです。日本ではまだまだでしょう。

それから農家民宿をやるとなると、大体国によって違いますが、35パーセントから47パーセントくらいの補助金が出ます。出る場所は3カ所から出ます。1カ所がEUのブリュッセルの本部から出ます。もう1カ所は各国から出ます。もう一つは各国の州から出ます。いわゆるその3カ所から出ます。微妙な違いがありますが3カ所から出ます。それからどの国も新築は一切ダメです。新しく全部というのはダメなんです。古い農具舎、あるいは古い家畜舎、そういう所を改造した物に関してはOKという助成金が出ます。

細かい規制がいっぱいありますが、大きな違いがありました。日本の場合、旅館もホテルも農家民宿も、小動物いわゆる牛・馬、こういうものがダメなんですね。羊もダメ。ところがヨーロッパの場合は「小動物を飼いなさい」ということなんです。日本の厚生省の言い分は、「動物は人が持っていない細菌をいっぱい持っているからダメなんですよ」。私もそれはそうだと思います。ところが向こうの場合は、いわゆる医療保険を支払うということで「うつ病の患者に対して一番の癒しになるのが小動物だ」と言うんですね。向こうのお医者さんが言うのはね。その辺のところが日本と大きな違いがあるんだなあと思います。いわゆる許認可基準ですね。

更に大きく違う部分は、大学の卒論を書く生徒達が言うには「グリーンツーリズムの本を色々なところから買いあさって読むんだけど、ほとんどがヨーロッパの本だ」と言うんです。大島順子さんという方がフランスにいて、訳して全部日本に本を送っています。今、秋田農業短期大学から遠野で東北グリーンツーリズムスタッフミーティングというのを立ち上げた青木さん。この方は昨年ロンドンに1年行ってこられました。あの方もやはりクラインガルテンは向こうの方が主体で、訳した物が多いんですね。

ではこれからは日本ではどのようにということになると、先程言った表日本、裏日本の話じゃないんですけど、内需拡大ということです。例えばEUの場合、ドイツにアウトバーンという有名な高速道路があります。あのアウトバーンがEU連合をやって国境のゲートを取った途端に外国車ナンバーが30パーセント以上増えたと言うんです。たまに渋滞が起こると言うんです、あのアウトバーンで。

「これ以上に渋滞がおこったら料金を取ろうか」なんてやっているとと言うんです。去年行ったときはまだ取っていませんでしたが。

ところが日本の場合には内需拡大ということでEUのように連合を組んでも、アジア連合というふうにしても、朝鮮・中国・台湾と一緒にやっても、日本はどうにもならないんですよ。回りが全部海ですから。結局は内需拡大なんです。たまたま良いことに、表日本と裏日本があるから表と裏の交流がいいんじゃないかなと私は細々と思っている一人なんです。

今、大体、日本の行財政改革が終わりました。昭和36年のイケイケドンドン・高度経済成長・所得倍増計画が大体終わりました。行政があまりにも贅肉がありすぎてそれをそぎ落とそうということで行財政改革。そのターゲットになったのがいわゆる3公社5現業で最後まで残ったのが郵政でしょう。最初の頃にやったのが電電公社。

あの頃のNTTの電話料金は日本の国全体で5兆円使われていたそうです。そのうちの3兆円がなんと東京と大阪の間、関東・京阪神で使われていたそうです。ということはあそこら辺にお金が集中している、いわゆる雪の降らない表日本なんですね。だったら雪の降る裏日本へ人の交流をするということが大事かと思っています。人の交流ということは人が動けば経費が付いて回ります。ということは世の

中が活性化します。ということで農家が第二の軸足をその辺に少し移してもいいんじゃないかなとは思っているんですがね。

ということで、3年〜4年ぐらい前から北東北の連合ということで、この岩手県さん、秋田、それから青森さんが北東北観光連合という色々なものが立ち上がっています。そういうことは私は大変歓迎はしています。足並みを揃えて首都圏・京阪神のほうに売り込むという事がすごく大事かと思えます。

今、秋田の場合は韓国・台湾のお客さんが田沢湖高原の温泉地帯に大変訪れています。昨年、有名になりました鶴の湯が雪崩でやられました。その時にお湯に入っていた人が何人かいたんですね。そこに助けに行ったそうです。そしたら全然なにも喋らない。「痛いですか、大丈夫ですか」といっても何も喋らない。そしたらそれが韓国と台湾の人なんです。日本語が通じないわけなんですよ。そんな話もありました。

秋田にマリア像というのがあります。木彫りの像が雨が降ったり気圧が変わると自然に涙を流す像があるらしいんです。私は秋田にいて知らなかったんですけど、今それに韓国からものすごい人がツアーを組んで来ているんですね。そういう形では微増ですけど、少しずつ今増えています。

もう一つ、私どもが一番力にしているのが・・・、いくら韓国・中国に売り込んでいっても秋田の場合空港は1週間のうち3分の2、いわゆる2日か3日は猛吹雪で飛行機が降りられないんです。「ではどこを？」ということなんです。それを表日本の岩手の花巻空港に秋田県でお願いしているということなんです。大変力強く思っています。それと後は若干青森。新幹線が今度は盛岡から八戸に開業しまして、今「はやて」が走っています。修学旅行というのは2年前に発生します。ですから今現在20年の修学旅行がドンドン入ってきています。もう来年はグリーン期は入りません。もう来年から再来年の流れは違います。前は盛岡で降りてバスで私どものほうへ入ってきたんです。ところが「はやて」で八戸に行って、八戸から十和田湖をかけて八幡平をかけてこっちへ下りてくるんですね。八幡平の所で私どもの秋田県側へ来る学校、それから岩手県側に降りてくる学校、大体、今のところ半分くらいです。流れとしては良い流れだなと思っているんです。

ですから農家はこれからの第二の軸足を都市農村交流の受け入れに、いわゆる都会の子ども達・都会の家族の受け入れに、少しは目を向けて活性化に向けていただきたいと思えます。

そんなことで、私ども昭和46年の12月21日に、民宿の許可をいただきました。約10年。軒数も増えました。開業はしたけれども客が来ない。じゃあ、ということで少しリサーチをしたんです。どういうリサーチをしたかという、いわゆる、都市と農村。勿論そういう言葉は昔からありました。都会いわゆる首都圏の、麴町税務署に税金を納めている法人、上場100社の休暇を調べて貰いました。これは

日本余暇開発センターの白石さんという方です。今から15年ぐらい前です。そうしたら首都圏の100社の上場会社のサラリーマンの休暇が4.5日しかないんですよ。4.5日しかない人たちがこの北東北に向かって来ますか？家財道具一切積んで。ヨーロッパなんか最低20日です。フランスなんか50日くらい取るそうです。彼らは休みだっていうと全部車に積んで、南はニュースに降りたり北の方に行ったり。そして、大体30日、1ヶ月前後の間に2カ所から3カ所回っていわゆるバカンスを取るそうです。

それで、昨年また、日本の休暇ということで調べさせて頂きました。そうしたら確実に増えています。倍になっています。9日間取っています。ところがその中でどういう使い方をしているかということ調べましたら、海外組が大体25パーセントあるんですね。3分の1近くが外国に行っているんですよ。それを何とか国内の、それも農村のほうに目を向けて貰おうと考えているのが私だけではないと思います。そして活性化に結びつけようと。特に新幹線というのは有効な手段です。これは秋田は通っていないくてミニ新幹線ですが、これから北東北としては絶対強力な武器になります。とにかく今、山手線で切符を買うとこちらへすぐ来るんです。3時間。秋田市でも4時間でいきます。

それともう一つは、修学旅行の規制の話。公立高校の首都圏の学校には規制がかなりあります。例えば千葉県の学校。公立高校は出発してから帰るまで96時間以内に帰らなければいけません。首都圏の場合、いわゆる東京都の教育委員会・公立高校は4泊5日。同じことをしてはダメです。例えば北海道にいて4泊5日、観光名所巡り。これはダメなんです。九州も同じ。京都・奈良の神社仏閣巡りやってもダメなんです。スキー修学旅行で4日間毎日スキーをやってもダメなんです。「それを二つ以上組み合わせなさい」というふうになっています。

よく私どもに来た学校がやったことは、スキーを3日やって4日目には毛越寺か平泉か角館か、その辺を見て帰る。計画上はそういう形でやっていました。それから神奈川県の場合は上限が7万円です。距離が550キロ。ところが、神奈川県秦野市の高校、どう見ても盛岡からでも600キロ近いのですが、田沢湖に来るんですよ。「先生、どうして600キロもあるんですけど、550キロの距離をクリアしたの？」っていったら「いや、大丈夫なんだよ、出発地を東京駅にした」というんです。それだけ彼らは苦労して来ているんです。

もう一つ、行政さんは大変良く知っていると思うんですが、修学旅行なんかは計画書を出して教育委員会の許可をもらわなければ助成って出ませんよね。ところが東京の日野市の高校。4泊5日毎日スキーなんです。金土日月、火曜に帰っていく。金曜日に出てくる時に「明日、教育長に届けてくれ」って用紙を置いてくるそうです。用紙は次の土曜日に届くわけです。ところが土日休みでしょう。月曜日に教育委員会の教育長の机に届くわけで、来て初めて「はい」って見るそうです。「またやられた！」とこう言うそうです。4年続けて来ました。その時の校長が今、東京都の

教育委員をやっています。

だから、こうしてみた場合に「ただ修学旅行が来ました、バスが行った、帰った」ではないんですね。2年前からいろんな意味で切磋琢磨して学校の先生方同士で、・・ヨーロッパの諺に「隣の芝生は青かった」という言葉があります。テレビのドラマにも出ました。学校の先生方も競争があって「隣の学校の修学旅行はどこへ行った、成功したのか失敗したのか」という見方もするそうなんです。その中に私どもも、どっぷり入れさせられて逆に体験学習をさせられました。

それで結論が出たのが「主役はやはり子ども達だった」。マスメディアの通用しない学校の先生の世界にどうやって入っていったかという、私どもも意識しなかったんですが、こういう事なんですね。「子ども達には理念と哲学を教えること。」いろんな体験があります。漁業体験だと地引き網とか色々ありますね。稲刈り、田植え、草木染め、いろんなのをやります。ところが彼ら、彼女らに理念と哲学を教えて帰した農家があるんです。

一つ例に挙げますと、たとえば林業体験。林業は昭和36年の高度経済成長以後、全然ダメになった産業です。木の値段がドンドン下がっています。特に秋田杉などは大打撃です。でも子ども達には、駄目な産業なら潰せばいいということじゃなくて、林業は昭和36年までは隆盛な産業だったということをまず教えるわけです。ダメになった理由も少しはさわりで教えておきながら「林業とは親が植え、子が育て、孫が伐るんだ」と教える。「何年かかる？」と聞くと中学生の子どもでも「100年とか150年」という言葉が出てくるんです。そこをまず子ども達に教え込むということです。林業の仕事そのものも教えながら、そのことも覚えてもらって帰す。あるいはワラジ作りをした子ども達。「ワラジは人間が二足歩行した場合、特に日本の国は稲作文化で最初に素足の次にワラジを履いて歩いたんだよ」ということを教えながら、ワラジ作りは「駕籠に乗る人、担ぐ人、そのまたワラジを作る人」。いわゆる黒子に徹することを子ども達に教えて帰します。

そうすると子ども達は、修学旅行の文集に林業をやった子ども達は林業のことを書くわけです。ワラジ作りした子ども達はワラジ作りを書くわけです。「親が植え、子が育て、孫が伐る」あるいは「駕籠に乗る人、担ぐ人〜」。するとその文集は、卒業式間近まで先生が時間無いのを割いてようやく作りあげて「はい、これ文集ですよ」って配ります。それを誰が読みます？持って帰ると親やおじいちゃんおばあちゃんが読むんです。たまたま大田区教育委員あるいは北区教育委員がそのおじいちゃんだったということです。それで結局、主役は子ども達だったということです。

そんなところの流れが、マスメディアの通用しない世界に私どもが一生懸命やった結果でしょうね。

海が回りを全部取り囲んでいる日本の現状の打開策というより活性化・内需拡大に、この第二の軸足としての都市農村交流が少しでも役に立てばと思います。そういう意味では、日本の高速交通体系は、特に新幹線が通って東京か

ら3時間以内で来られる北東北には、これから最大の武器になると思います。これを活用しない手はないと思います。その表玄関がこの盛岡なんです。

そういうことで、一緒に、共に頑張りたいと思います。

今日はたいへんご静聴ありがとうございました。

「農家民泊の今後について」の会場からの質問に答えて

子ども達に対して誠意を持つことです。

皆さんがホテルに泊まった場合、5分もフロントにいないでしょう。そして部屋に行きますよね。後はほとんど接待するのは仲居さんですよね。そして朝ご飯食べて出ます。

ところがこの農林漁業体験というのは、来ると「いらっしやいませ、はい、どうぞ」も含めて日中ずっと体験者と一緒にいるわけですよね。ですからその辺のところの意識改革を180度変えて貰いたいんです。

旅館・ホテルだとお金を払う人・貰う人で上下の差が出ますよね。ところが体験民宿だと、勿論お金を払って泊まりますが、体験をお金を払って教えて貰います。大体同等の立場と考えた方が良いでしょう。ですから必要以上のもてなし、くつろぎというのはこれは旅館・ホテルでいいんです。農林業体験というのは180度コロッと変えて、体験を目的に来るお客さんと接している体験の時間の方が長いんだということです。

これはファミリーにも通じますが、まずとにかく私たちが農村にいて普通のことを彼らは感激するんですよ。来てみて感激するんですね。

ある時、子ども達に「首都圏の混む交差点に黙って立っているのと、農村の田圃の中に立っているのと、どういう気持ちの違いがありますか」と聞いたんです。そうしたら、首都圏の交差点はあんまり5分もいやだよーというんです。あの頃はまだ排ガス規制の前だったんです。とにかく3分立っていたら鼻の穴が真っ黒になっちゃう。どこかに逃げ出したい。穴があったら入りたい。とにかく居たくない。

ところが農村にきて田圃の中はまず黙っていて自分の存在の小ささに気が付くって言うんです。その次には果てしなく夢が広がるというんです。ほとんどの子ども達がいいです。「じゃあ、田圃の中には居たいの？居たくないの？」というと「いや、そこへはずっと居たい」という。そんな大きな違いがあります。ただ風景、農村の現状の姿で都会の子ども達に対する、今いわれる「癒し」といいますか、精神的なものを落ちつかせる何か媒体があらうかと思っています。

ですから「来年来るのか、再来年来るのか」じゃなくて、一生懸命子ども達とお付き合いして、あるいは来ている人たちとお付き合いすることが大事だと思います。

岩堰川フォーラム～自然の落差・水エネルギーの利用～

県南広域振興局土木部

TEL：0197-22-2881

昨年11月11日(土)、前沢ふれあいセンター研修室にて、岩堰川フォーラムが開催されました。このフォーラムでは一般の方、JA、土地改良区、行政機関等から約70名が参加しました。基調講演、参加者によるワークショップにより、河川エネルギーの活用をテーマに地域振興につなげる夢や可能性について意見交換を行いました。

○ 基調講演

東北大学大学院助教授 工学博士 浅沼宏氏から「河川エネルギーの利用について」と題し、基調講演をいただきました。河川エネルギーの基本的な知識や河川エネルギーの利用法についての説明、さらに、岩堰川の現段階でのポテンシャルエネルギーや、実際に河川エネルギーを活用する場合の技術課題・社会的課題等について講演をいただきました。

基調講演



グループ討議①



グループ討議②



グループ討議③



○グループ討議では参加者を10班に分け、それぞれの班に1人ずつ学生がファシリテーターとしてつき、岩堰川の河川エネルギーの利用方法について夢・アイデアを語っていただきました。その後、各班ごとに意見をまとめパワーポイント等でその案を発表しました。

実際に発表された案としては…

- ・ 落差工近くに急坂が多く存在するので、ロードヒーティングのエネルギー源として利用する。
 - ・ 園芸、農業、畜産、養殖、工場など、地場産業へエネルギーを供給する。
 - ・ 一般家庭、公共施設などへエネルギーを供給する。
 - ・ 新規施設、事業を開拓し、電力を供給する。
- 釣堀、岩盤浴施設、カントリーエレベーター、温水プール、スケートリンク
…等々、この他にもたくさんの意見・アイデアが出されました。

意見・アイデアの実現に向けた取り組みについては、東北大学大学院で整理検討の上、第2回フォーラム(3月開催予定)で検討を行います。

- 岩堰川は奥州市を流れ北上川に合流する一級河川で、県指定延長が5km あります。この間での標高差は約100m あり、そのうち前沢区の市街地に近い場所には、3箇所の大きな落差工が存在し、この落差は最大で10m もあります。

岩堰川全体の持つポテンシャルエネルギーは、約500世帯～3000世帯の家庭に供給できる電力に相当し、10mの落差工においては約30世帯～140世帯分の家庭に電力を供給できるのではないかと考えられます。

落差工



岩堰川フォーラムに参加して

○参加者の感想から○

- ・地域活性化の冷熱利用をもっと具体的に実現して、地域のモデル化になれば大変重要なことだと思います。
- ・地元の人間は特に資源と思っていないものが、結構あるのではないかと思います。
- ・自然エネルギーの持つ可能性を改めて感じました。水利権等の問題はありますが、河川がもう少し利用できると思う（身近なエネルギー源として発電のみでなく動力、熱源など）。次回もぜひ参加したい。
- ・国、県、市の財政が厳しい中で、こんなことは夢物語かと最初は思っていたのですが、水路という空間と立地条件等を活用すれば何か出来るような感じを持った。関係団体と住民との協働とPFIの活用も必要。

○土木部 小原○

このフォーラムに参加するまで岩堰川にこのような落差工があることがわかりませんでした。身近にこのような自然エネルギーがあることは大変驚きであり、エネルギー不足が叫ばれているこの時代、さらに、日本は世界で見ても、エネルギーを外国に依存している国であることから、自然のエネルギーを生かせる環境があるのであれば、積極的に生かす方向で検討すべきであると思いました。

また、グループ討議を行い、いろいろな方と会話をすると、それぞれ違った視点・考え方があり、想像もつかないような発想が多く、考えさせられました。これは非常に良い情報収集の場であり、それと同時に、自分も一緒になって議論が出来たので、非常に勉強になりました。また、このような積み重ねが地域振興へのステップにもなるのではないかと感じました。もちろん意見・アイディアの中には不可能と思われるもの、採算が取れないだろうと思われるものもありましたが、ざっくばらんに意見を出し合い、有効的な活用についてみんなで一緒に議論することは、より良いものを作り出すための、一番の近道だと感じました。

このフォーラムに参加して、身近な自然エネルギーの小さいようで大きな可能性について認識できたことは、一番の収穫であり、とても良い機会でした。今後も、身近に潜んでいるであろう自然エネルギーについて、これを機会に違った視点で見ていきたいと思っています。



これからの川づくり 岩崎川ワークショップを開催

盛岡地方振興局土木部

一級河川岩崎川の川づくりと今後の利活用の可能性を官民一体となって考える目的でワークショップ全3回を開催しました。

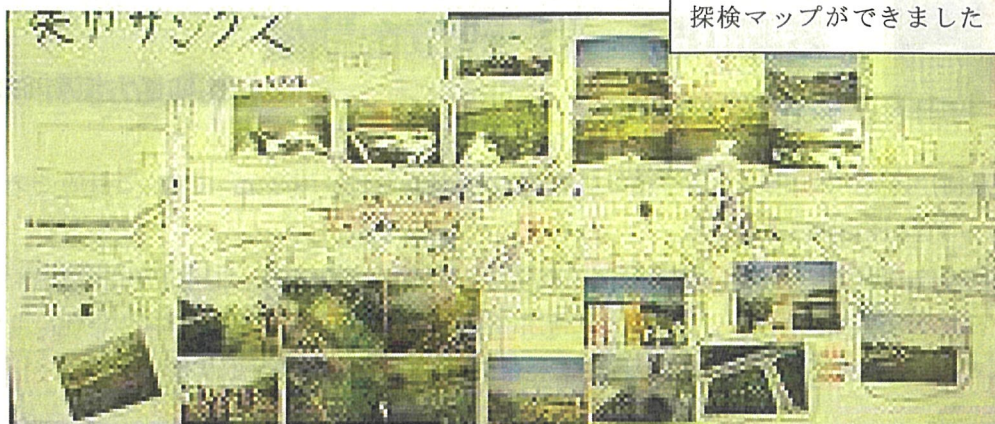
流域の矢巾町では、川沿いの敷地に岩手医科大学が開設予定であり、近年市街化が急速に進んでいることから、街づくりと一体となった河川空間の活用方法について地域住民の参加により議論していこうとするもので、地元のNPOやはば協働センターと連携し実施しました。

●第1、2回(9月30日、10月14日)

2回にわたり、地元小学生親子の参加により岩崎川を散策してもらい、気がついた点を観察マップとしてまとめました。

また『こんな川になってほしい』を絵で表現するというテーマでは「ウォーター 슬라이ダーやそりレースコースがほしい」「木を植えてカブトやクワガタがたくさん集まるようにしたい」「花壇や休み場がほしい」などの夢やアイデアが描かれました。





●第3回(11月18日)

一般市民を参加対象として、子供たちの意見や夢などを紹介して、大人の視点で話し合っていた。ただ「緩傾斜落差工をウォータースライダー代わりとしてはどうか」「桜並木をつくりたい」等の具体案が提言されました。

第3回の様子



今回いただいた意見を取りまとめ、今後の川づくりに活かしていくこととしています。
また、次年度以降も継続してこのような議論の場を持つ予定です。

なお、第2回までの開催状況について盛岡地方振興局土木部のホームページに掲載しています。

(→ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1008/>)

盛岡地方振興局土木部河川砂防課 (TEL019-629-6649)



県土整備部パネル展

社会資本の整備と活用を通じた地域づくりフォーラム併催事業

12月10日～12月17日

アイーナ（盛岡駅西口複合施設）で、県土整備部パネル展を開催しました。

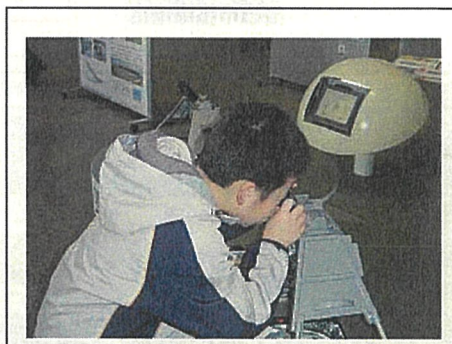
県土整備部では、県民の皆様とのコミュニケーションを大切にして、参加・協働の視点で事業を進めています。

しかし、「県庁は何をしているのかわからない？」のが実感では。

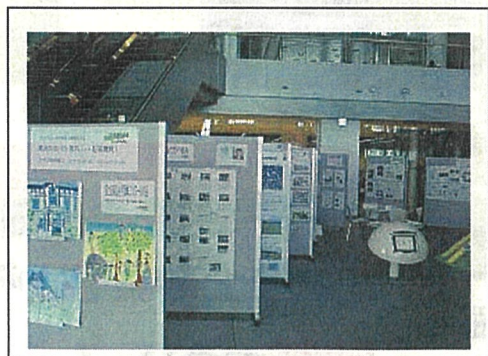
そこで、今回は、一日平均4,000人～5,000人が訪れるというアイーナを会場に、県土整備部の仕事を丸ごとお知らせするパネル展を開催しました。

高校生、大学生など若い世代も沢山集まる場所ということもあり、今回は、部内各課のフレッシュな若手職員が中心となって企画準備を担当。それぞれが、いかに自分たちの仕事とそれにかける想いを伝えられるか試行錯誤し、個性溢れる展示となりました。

これからも、「みんなで創るみんなの県土」を合言葉に、コミュニケーションを大切にしながら、社会資本の整備に努めていきます。



航空写真を立体的に見る立対鏡を覗いています



問い合わせ先

県土整備企画室 Tel.019-629-5846

さほう 砂防

広報担当

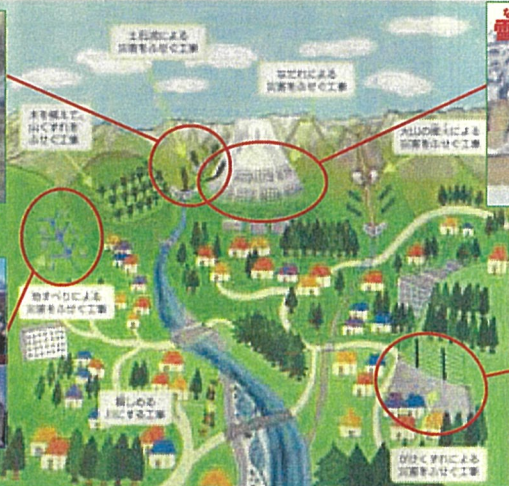
さほうさいがい じし せだいしき あつし
砂防災害課 技師 小田島 淳
さほう しごと さいばん せも たいせつ しごと
砂防の仕事はみなさんの命や財産を守る、大切な仕事です。



さほう
砂防
ってなに？

土砂災害とは？

わたしたちの身のまわりには
右のような土砂災害があるんじゃない。
地域を土砂災害から守るため、
どんなことが行われているのか、
小田島さんに聞いてみよう！



ハード対策

土砂などが崩れてくるのを防ぐために、
施設を整備しています。(ハード対策)
上の絵と左の絵をくらべて、
どんな施設があるかわかりますか？



ソフト対策

自助 (自分の身を自分で守ること)
共助 (隣近所や地域で互いに助けあうこと)
の仕組みを作り、危険な箇所をお知らせしています。
また、みなさんがスムーズに避難できるように、
大雨情報などを出しています。
これがソフト対策です。

●土砂災害警戒区域の指定

土砂災害
警戒区域



●がけ崩れ危険住宅移転促進事業



ハード・ソフトを組み合わせ
地域を土砂災害から守るのが
砂防なのじゃ！



●気象台と連携した土砂災害警戒情報の提供
(平成19年3月 開始予定)

さいかい まいとし

「災害」は毎年やってくる!

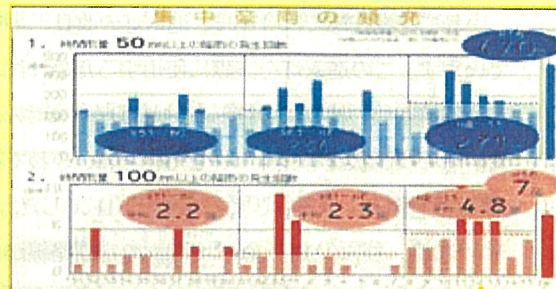
ただか

「災害との戦い」

さいかいふっきゅうだんどう
災害復旧担当
ふじわら
の藤原です!!



みな しよう どうろ かわ おおあめ
皆さんが利用している道路や川などが大雨など
ひがいに う はや もと
により被害を受けたときに、より早く元にもどし、
あんしん にちや
皆さんが安心してくらせるよう日夜がんばっています!
みぎ ぜんこく さいきん ねんかん しゅうちゅうごう
す!(右のグラフは全国の最近30年間の集中豪
う しょうきょう あられ
雨の状況を表したものです。)



こうすい さいかい かこ
洪水による災害(過去)
かるまいまち
(軽米町)



あめ ふ どうすい
雨が降り増水し、
いほ なが
家が流されそう
になっています!

ふっきゅうご
復旧後



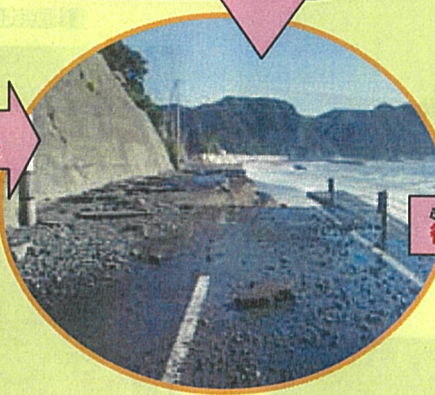
さいきん おおあめ かいそう
最近は大雨の回数
ふ
が増えていきます!
いま おおあめ る
今まで大雨が降っ
ていない地域でも
あんしん
安心はできません!

はろう さいかい
波浪による災害(H18)
のたむら
(野田村)



なみ たか
波の高さは
8mくらい!

ひがいに
被害後



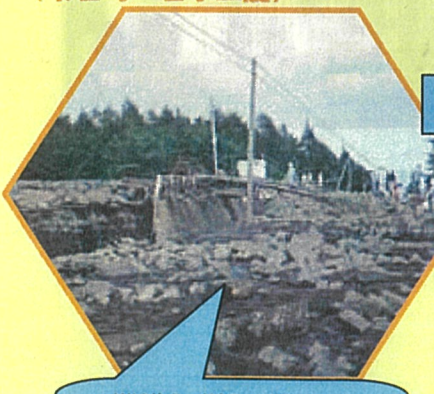
なみ どうろ こわ どれ
波のため道路が壊れて通れ
なくなっていました!

ふっきゅうご
復旧後



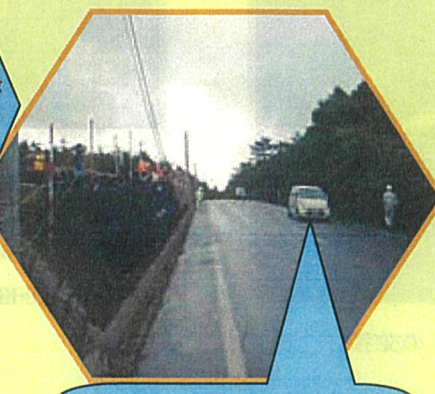
いぞ かいふっきゅう
急いで仮復旧し、
くるま だいじ
車が1台通れるよう
になりました!

どせきりゅう さいかい
土石流による災害(H18)
しずくいしちょう いわてさんろく
(栗石町:岩手山麓)



どせきりゅう どうろ どれ
土石流で道路が通れなく
なっていました!

ふっきゅうご
復旧後



いぞ つち いし
急いで土と石をどけて
くるま どれ
車が通れるようになりました!



ことし さむ
今年の寒さはきびし
く、寒さのため凍み
あ ぼとう
上がって舗装にひび
はい さいかい
が入った被害です!

TOPICS

おつかれさまYS-11

12月11日

花巻空港

いわて花巻空港では今年度、進入灯の改良工事を行っています。この進入灯を実際に使用するためには、国土交通省航空局の検査に合格しなければなりません。飛行機からの視認状況をチェックするために、いわて花巻空港に検査機として飛んできたのはYS-11でした。YS-11といえば、昨年の9月30日で国内の定期路線から退役しましたが、いわて花巻空港にとっても開港直後の昭和41年から平成4年まで、花巻―羽田便を中心に活躍したなじみの深い機体です。13時40分頃姿を見せた白い機体のYS-11は北側から進入し、空港の上空を大きく3度周回して検査を行ったあと着陸することなくゆっくりと雲の中に消えていきました。この航空局の検査機も12月22日の退役が決まっているとのことで、YS-11の最後の勇姿をいわて花巻空港に見せに来てくれたように思いました。おつかれさまYS-11。



着陸進入体制のYS-11



胴体には「おつかれさまYS-11」の文字

■ 問い合わせ先

花巻空港事務所

Tel: 0198-26-2016

■ 一般国道455号(仮称)北山トンネル貫通式

12月13日

盛岡地方振興局

12月13日、一般国道455号(仮称)北山トンネルの貫通式が行われました。

7月26日に下り線、11月22日に上り線の貫通を終えていましたが、今回は請負者が主催し、増田知事や谷藤盛岡市長、県議会議長(副議長代理出席)、西畑県土整備部長、関係地権者、協力会社など約180名が参加し、盛大に貫通式が行われました。

知事、市長、請負者代表などのスイッチにより幕が開き、北山側の景色が見えたときには大きな拍手と歓声が沸きました。その後、貫通点通り初め、樽御輿運行、鏡開き、万歳三唱と続きました。

知事のあいさつでは、難工事を人身事故なく無事に施工した請負者へのねぎらいと、用地提供で協力いただいた地権者への感謝、残る工事の早期完成へ決意の言葉が述べられました。

今後は、平成22年前後の供用開始に向け、トンネル内設備や舗装などの残る工事を進めていくことになります。

貫通点通り初め



増田知事(右)と前田建設工業社長(左)

盛岡地方振興局土木部

Tel: 019-629-6655

みんなの声

平成 18 年 10 月に、県土整備部に寄せられた県政提言への取り組み状況について掲載しました。

ご提言いただきありがとうございます。

みんなで創る” みんなの県土

これからも皆様の声を大切に、県土づくりを進めてまいります。

opinion/idea/proposal/recommendation

子供達が外で遊べる場所が減っている。そのような場所があっても禁止事項が多く抑圧されている。子供達が遊べる広場をもっと多く作り、禁止事項は最小限にしてほしい。キャッチボール禁止はやりすぎだと思う。

2006/10/16/電子メール

子供達が気軽に遊べる身近な広場として、市町村が整備を行っている街区公園や近隣公園などがあります。市町村ではより多くの方々がこれらの公園を利用できるよう、厳しい財政状況の中で、その整備に努めています。

また、これらの公園の禁止事項はそれぞれの市町村の判断で定めています。公園は小さな子供からお年寄りまで、多くの方々が利用しますので、キャッチボール禁止などの禁止事項が設けられるのは、安全上の問題などからやむを得ない面があるものと考えます。

なお、県が管理している広域公園（御所湖広域公園、花巻広域公園）においても、利用者から苦情をいただいていることなどから、小さなお子様への危険防止のため、公園内の一部で、硬いボールによるキャッチボールを御遠慮いただいております。

これらの公園を幼児から大人まで安全で楽しく御利用いただくため、御理解と御協力をお願いします。

opinion/idea/proposal/recommendation

車道への雪の投げ捨てについて、冬場になると、車道へ雪を投げ捨てる光景をよく目にする。交通の安全を確保した場所に再び雪を投げ込むことは、除雪作業の妨害・公務の妨害に値するのではないか。

道路への雪の投げ捨てを条例で禁止して罰則を設ける代わりに、民家の出入口に標識を建て、除雪の際、その標識のある場所には雪が残らないようにしてはどうか。

2006/10/2/電子メール

県では、道路への雪出しを行わないよう道路周辺地域の皆様のご協力とご理解をお願いしながら、冬季の安全な交通の確保に向け除雪事業を行っています。

また、道路の交通に支障を及ぼすおそれのある行為、又は交通の妨害となるような除雪は、次の2つの法令により禁止されています。なお、法令に違反した場合には罰則規定があります。

- ・道路法第43条第1項第2号

- ・岩手県道路交通法施行細則第22条第1項第6号

ご提案のありました出入口付近への標識設置については、道路の見通しの確保、設置箇所、設置方法、費用負担等の課題があるほか、出入口の雪塊等の再処理が必要であることなど、除雪経費の負担増につながり、対応が難しい状況です。

「平庭トンネル早期完成を」という住民大会が開かれた事を知った。平庭高原は「難所」ではないと思うし、風光明媚な聖なる山に「穴を掘る」という事に理解できない。狭い部分の道路は拡幅すればよいと思う。早ければ良いという考え方には賛同できない。平庭高原にはトンネルはいらない。道路には車を一台寄せる程度の広さの場所を所々に作れば休憩し、空気も吸えるので良いと思う。

2006/10/23/文書

一般国道 281 号「平庭峠」の整備については、昨今の公共事業を取り巻く環境が非常に厳しいことから、県全体の道路整備計画の中で、公共事業予算の動向や交通量の推移等を見極めながら、整備手法を含め、様々な角度から検討を行うこととしています。

振興局土木部管理課の課長または係長と思われる職員の対応がとにかく遅い。仕事全般が遅い上に、質問をしたことに対して、分からないことを本庁かどこかに電話で確認することがあるが、5分どころではなく、長々と電話で話していたりする。時間を指定して伺っても、電話で話し続けていたりするが、人を待たせる態度ではない。職員の落ち葉清掃をニュースになっていたが、ニュースになること自体おかしい。

2006/10/24/電話

広域振興局、地方振興局等の土木部の職員（臨時職員と非常勤職員を含む。）に対し、来客対応の迅速化に努めるとともに、お待たせする時は予め待ち時間を伝えること、また、来客者の誤解や不信を招かないよう勤務態度に十分注意することについて、各所属長等を通じて周知しました。

県職員の落ち葉清掃をニュースになっていたが、ニュースになること自体おかしい。

2006/10/27/電子メール

一般国道 455 号周辺歩道の落ち葉清掃については、平成 16 年から内丸周辺に所在する国と県の行政機関（盛岡地方裁判所、法務合同庁舎、国合同庁舎、盛岡東警察署、県議会事務局、県土整備部、盛岡地方振興局等）の職員有志が、ボランティア活動として行っています。毎年の恒例行事となり、参加団体・人数とも多いことからマスコミの目に止まり報道されたものと思われます。

このような活動は、民間や行政機関を問わず、社会の一員として自主的に取組まれるべきものであり、今後も職員ボランティアによる清掃活動を続けていきます。



Information

○平成 17 年度道路交通センサスの結果

渋滞・地球環境への影響などへの対策や
将来のまちづくり・みちづくりに役立てています。

平成 17 年度に実施した道路交通センサス（正式名称は「全国道路街路交通情勢調査」）について、県内の一般交通量調査（交通量調査、旅行速度調査、道路状況調査）結果の概要がまとまりました。

道路交通センサスは、全国の道路状況、交通量、旅行速度、自動車の起終点、運行目的等を調査して、道路と道路交通の実態を把握し、道路計画・管理に活用し、各種の道路政策を策定する上での基礎資料とするものです。

昭和 3 年度から 3～5 年ごとに実施してきており、昭和 55 年度からは概ね 5 年ごとに実施しています。今回は平成 11 年度以来 6 年ぶりの実施となりました。

■掲載先

道路建設課ホームページ

「平成 17 年度道路交通センサスの結果について」

<http://www.pref.iwate.jp/~hp0602/sss/sindx.htm>

■問い合わせ

道路建設課 TEL：019-629-5866

○エアポートウェディング参加カップル募集

いわて花巻空港で結婚式をあげませんか！



岩手県空港ターミナルビル(株)では、創立 25 周年を記念して、エアポートウェディングを行うカップルを募集しています。

いわて花巻空港で結婚式を行い、同日ハワイ 6 日間の旅へご招待します。(1 組)

■実施日 平成 19 年 3 月 4 日(日)

■応募対象 岩手県内在住で平成 19 年 3 月に入籍予定の方(1 組)
3 月 4 日から 9 日まで旅行参加可能な方

■賞品内容

☆空港ビル内での簡素ながら心をこめた結婚式
☆JALPAK で行くハワイ 6 日間ペア 1 組
(中部国際空港経由)

■お問合せ先・お申込み

<http://www.hna-terminal.co.jp/>
(空港ターミナルビルHP)

○「四季成りいちご」の愛称募集

久慈産いちご「なつあかり」と「デコルージュ」
に愛称をつけませんか？

県では、県内建設業の構造改革の推進を図るため、建設業者が取り組む農業分野、環境分野、福祉分野等への新分野進出を積極的に支援しています。



久慈地域では、管内 2 市村の建設業者の方々が共同により「四季成りいちご」を生産し、この夏からの出荷を目指して準備に取り組んでいます。

いちごを広く皆様にご紹介し、久慈産いちごを PR するため、覚えやすく、親しみやすい愛称を募集します。

■応募方法

応募資格及び応募点数に制限はありません

官製はがき 1 枚または、e-mail (kujiichigo@gmail.com) に愛称 1 点として、郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・性別を明記の上送付及び送信してください。

応募する愛称については、自作の未発表作品に限ります。

■応募〆切

平成 19 年 1 月 15 日(月)

※ 期間内到着分のみ有効。

■選考

2 月下旬までに決定し、3 月上旬本人に通知
採用された方へは、記念品として商品券(3 万円分)と来春収穫の久慈イチゴを後日発送させていただきます。

■お問い合わせ・応募先

〒028-0014 岩手県久慈市旭町 7-105-18

社団法人 岩手県建設業協会久慈支部 内
四季成りいちご生産倶楽部 愛称募集係

お知らせ

盛岡市北山地区（県立中央病院付近）の道路事情が変わりました。

12月5日

北山トンネル南口(国道4号側)交差点を中心とした盛岡市北山地区の道路事情が変わりました。

平成 17 年4車線の市道が整備されたことから、信号機のないT字交差点となっておりましたが、今回、信号機が設置されたことで、本格的な交差点として通行が可能になりました。

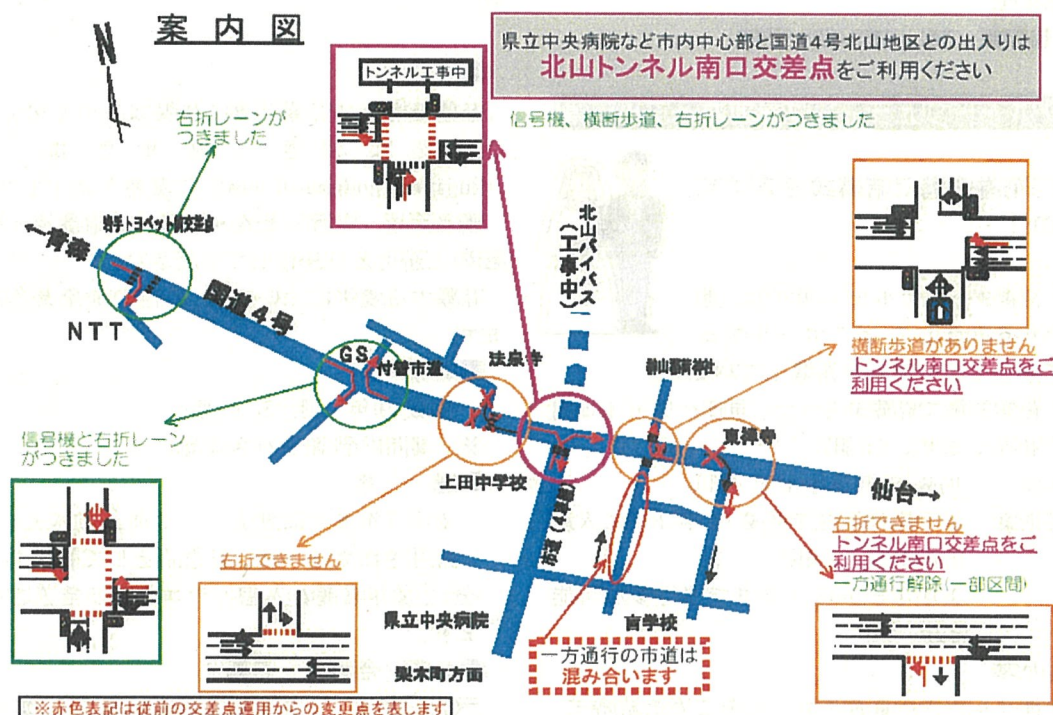
特に、これまで県立中央病院や市内中心部からは、狭い市道を利用して国道4号に出入りせざるを得ませんでしたが、4車線の市道との交差点に信号機が設置されたことで、国道4号への出入りが円滑になります。

また、右折待ち車両への追突事故の防止のため、上田NHK前交差点から北山地区までの国道4号上に広い中央帯を確保するように白線を引き直しました。

北山地区は、短い区間に右折レーンの無い信号交差点が3箇所連なり、慢性的な渋滞を引き起こし、国道4号で最も事故の多い区間でした。

これら国道 455 号北山バイパスの取り付けに伴う一連の工事は、県と盛岡市が国道4号の交差点の拡幅工事を行い、国土交通省と県が舗装工事を、そして警察本部が信号機設置工事を行ったものです。

これからも、県民の皆さんの声を大切にして、国・県・県警・市町村など様々な機関が連携・協働しながら、交通安全の確保と渋滞解消、利便性の向上を図るより良い道路を整備していきます。



身近にある道路・ダム・港・空港を探検してみよう！

県土整備部 なるほど探検講座

岩手県県土整備部では、次代を担う小中学生をはじめとする県民の皆様に、当部が管理している施設や工事の様子などを公開し、その目的や役割について分かりやすく解説する「**県土整備部なるほど探検講座**」を実施しています。

19年度の総合学習や子供会や児童センターなどの行事にいかがですか。何気なく使っている身近な道路・川・まちなどをテーマにした地域学習やキャリア教育の一環として、ぜひご活用ください。

1 内 容

- ・ 講座では、道路の話や川の話、ダムや空港・港の話等、身近な暮らしの話題から専門的な話題についてご説明・ご案内いたします。

① 見学できる「施設」・・・浄化センター（污水处理）・空港・ダム・港湾など

② 見学できる「工事現場」

・・・道路・トンネル・川・空港・ダム・港湾・災害復旧工事など



18年夏のデータはこちら。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp0600/npo/kouza3/kouza3.html>

2 利用方法等

① 対象

小中学校をはじめとする団体及び個人。概ね10人以上。

※ただし、収益的事業として実施する場合は対象としません。

② 経費の負担

無料

※有料資料の配付をお求めの場合は、主催者においてご負担いただく場合があります。

③ 申込方法

年度や工事の進捗状況などにより、見学できる工事現場は変化しますので、最寄りの振興局等土木部企画担当にご相談ください。

県庁県土整備企画室

TEL：019-629-5846

盛岡地方振興局

TEL：019-629-6636

県南広域振興局

TEL：0197-22-2881

県南広域振興局花巻総合支局

TEL：0198-22-4971

県南広域振興局北上総合支局

TEL：0197-65-2738

県南広域振興局一関総合支局

TEL：0191-26-1418

大船渡地方振興局

TEL：0192-27-9919

釜石地方振興局

TEL：0193-25-2708

宮古地方振興局

TEL：0193-64-2221

宮古地方振興局岩泉土木事務所

TEL：0194-22-3116

久慈地方振興局

TEL：0194-53-4990

二戸地方振興局

TEL：0195-23-9209

建設企業の経営戦略セミナー（地域版）2007

建設企業経営戦略セミナーを県内各地域でも開催してほしいとのご要望にお応えいたしまして当該セミナーを開催することといたしました。本セミナーは、建設企業の経営者や幹部、後継者の方々を対象に、経営革新事例における経営戦略の特徴や経営革新を成功に導くための連携方策等を学んでいただくとともに、今後の自社の進むべき方向について経営革新テーマの設定やビジネスプランの作成について学んでいただきます。また、個別企業相談にも17時からご希望に応じて対応いたします。

今後の貴社の新事業展開等の計画・企画にぜひご参考にしてください。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

開催コース一覧				
コース	開催地・日程	内容	対象者	定員
A	奥州会場 胆江地区勤労者教育文化センター 2/6、2/13、2/20、2/27 各 13:00～19:00	新規事業展開実践演習 （4回シリーズ） 講師：マネジメント・サポートオフィス 高橋正典氏（中小企業診断士）	経営者、役員、後継者	20名程度
B	一関会場 産業教養文化体育施設（アイドーム） 2/9、2/16、2/23、3/2 各 13:00～19:00	新規事業展開実践演習 （4回シリーズ） 講師：㈱ケイエイ・サポートオフィス 菅原繁雄氏（中小企業診断士）	経営者、役員、後継者	20名程度
C	宮古会場 シートピアなど 2/13、2/21、2/28、3/7 各 13:00～19:00	新規事業展開実践演習 （4回シリーズ） 講師：㈱高橋コンサルティングオフィス 高橋雅裕氏（中小企業診断士）	経営者、役員、後継者	20名程度
D	二戸会場 二戸市シビックセンター 2/2、2/9、2/16、2/23 各 13:00～19:00	新規事業展開実践演習 （4回シリーズ） 講師：土岐経営支援事務所 土岐徹朗氏（中小企業診断士）	経営者、役員、後継者	20名程度

お申込み要領	
参加費用	無料（各コース1社2名まで）
参加申込み方法	各コースの参加申込書に必要事項を記入の上、FAXにてご送付ください。申込みを受け付け次第、受講券をお送りいたします。 申込み用紙は岩手県県土整備部建設技術振興課のホームページをご覧ください。
申込み期限	各コース開催日の1週間前とさせていただきます。なお、定員になり次第、申込みを締め切る場合もございますので、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ窓口	
岩手県県土整備部建設業総合支援本部（建設技術振興課内） 臼澤 TEL：019-629-5954 FAX：019-629-2052 URL：www.pref.iwate.jp/~hp0610/	